
◆ 目次 ◆

- 1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶
 - 2 2021 年 7 月・8 月の休館日
 - 3 寄稿（ラヴァル大学医学部教授 佐藤政彦・佐藤祥子）
 - 4 領事便り
 - (1) 日本へ入国・帰国される方々へ
 - (2) 領事窓口の受付時間
 - (3) 2021 年度の領事出張サービスについて
 - (4) 在留届の内容は最新でしょうか？
 - (5) 海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内
 - (6) モンリオールアカデミー会から 講演会のお知らせ
 - 5 広報・文化便り
 - 6 政治
 - 7 経済
- * * * * *

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

7 月に入りモンリオールは盛夏を迎えていますが、猛暑となっているカナダ西部と異なり、例年に比して雨が多く涼しい日が続いていますが、皆様如何お過ごしでしょうか。

さて、来週からいよいよオリンピックが始まります。コロナ禍により、オリンピックの開催に至るまで長い紆余曲折がありました。選手の皆様や関係者の方々におかれては、この 1 年、本当に大変な苦労をされたと思います。コロナ禍が収まらない中でオリンピックを開催するために、東京都等で開催される競技は無観客を余儀なくされるなど、様々な支障がありますが、厳しい状況にもかかわらずオリンピックが開催されることは本当に喜ばしいことだと思います。カナダに勤務するものとして、日本人の選手の健闘とともにカナダ選手の活躍を期待したいと思います。

この 1 年半、私たちの日常生活には大きな制約が課せられてきましたが、市民の忍耐、努力とワクチン摂取の大幅拡大により、コロナを封じ込めつつあります。既にモンリオールではレストランも再開し、街にはかつての活気を取り戻しつつあります。トルドー首相によれば、カナダと米国の国境の移動制限は、8 月中旬より大幅に緩和される可能性があるとのこと。また、ケベックにおいては、夏休み明けの 9 月

上旬からほぼ普通の生活に戻れる見通しとなっています。残る大きな課題の一つは、日本との往来の規制緩和です。これには日本側の事情もあり依然として見通しが不透明ですが、きめ細かく情報をフォローし、動きがあれば、皆様に速やかにお知らせしていくつもりです。

総領事館の活動に関しては、この１年半、大西洋諸州の邦人の方々とはすべてオンラインで連絡を取りあい、総領事館員が現地を訪問する領事サービスは実施できませんでした。皆様には大変なご不便をおかけしました。州間の移動規制の緩和を受けて、今夏から徐々に出張サービスを再開しようと考えています。総領事館の人的体制の制約から、一度に大西洋州全ての州に対して出張サービスを行うことが現実的に難しいことから、まず、領事班長の久我領事が、８月にニューブランズウィック、９月にニューファンドランドへ出張する予定です。また、出張サービスではありませんが、垂井次席領事が８月の終わり頃にノバスコシアを出張し、皆様にお目にかかります。更に、本官も８月の半ばにプリンス・エドワード・アイランドを訪問し、アン・グリンゲールズへの外務大臣表彰の表彰式を行う予定です。

それでは皆様、短い夏ですので、大いに楽しみましょう。

2 2021 年 7 月・8 月の休館日

●7 月 23 日（金）スポーツの日（日本の休日）

●土・日曜日

3 寄稿 ～ ラヴァル大学医学部教授 佐藤政彦・佐藤祥子より ～

成田から南回りのキャセイパシフィック航空に搭乗したのは１９８９年の秋。祥子には状況が違でしょ、と言われそうだが中森明菜の北ウイングの歌詞が頭の中でグルグル回っていた。そうこうするうちに香港啓徳空港に到着。これで中華料理ともしばらくお別れかと思い、フカヒレスープを思い切り食べ、後にドバイ経由でロンドンに。あれから、サンフランシスコ近郊シリコンバレーに移り、そしてケベック市へ。

祥子と政彦二人で何か小文をとのお誘いを受けたので、この機会に、おそらく多くの方にとって馴染みの薄い基礎生物学・医学研究者としての歩み、また、私たちの在籍するケベック市の大学のユニークなところを、実体験を基に少し描いてみたい。雑文的また主観的になるが、その点をご容赦を。

研究者と言えば白衣を着た頭ボサボサのおじさんを思い浮かべるかもしれない。それは極端なイメージです、と言いたいところだが、実はイギリスの研究者はあのイメージ通り。一方、アメリカの研究者はピカピカのエリート。日本人はと言えば、少しくすんだピカピカのアメリカ的研究者かな。それで、具体的に何をしているのかと言うと、中高学校の理科の高等版。あえて誤解を恐れずに単純化すれば、「赤い液にレモン汁を入れたら黄色くなりました」的な実験結果を専門用語で、あーでもない、こうでもない、と議論し、理論構築。ただ、自然の本当の姿など、実は知りようがないから科学的“想像”といった方が正確かもしれない。

そして、学会や専門雑誌でどちらの“想像”が正しいか議論を戦わせる。多くの科学論文に書かれた科学的“想像”は消え去るか、また忘れ去られることも多いが、その一部が後で掘り起こされ見直されることも日常茶飯事。また、たまに、役立つものが出てくるが、それが世の中を変える糸口になったりする。研究者はこの「たまに」を目指して日々頭を回転させているとも言えるかもしれない。ちなみに、一言付け加えれば、科学研究資金は広く満遍にピラミッドの底辺に水を与えるように交付しなければ、その水はピラミッドの頂点まで到達しない。その頂点に当たる世の中のために科学的“想像”は多くは輩出されないのが現実。大いなる自然と生命に対する人間の英知の限界を想像して欲しい。

このような世界に足を踏み入れたのは80年代。政彦は東京港区のとある研究所の博士課程。祥子は製薬会社の研究所を経て、同じ港区の研究所で修士。そして政彦は博士課程終了後、イギリスのロンドンヘポストクという、研究者が大学に就職する前の一種のトレーニングへ。とは言ってもこのポストクの間に業績を上げなければ次が無い。王立癌研究所でスウェーデン人のボスと仕事を始めたものの訛りの強い彼の英語に四苦八苦する毎日。

祥子はイギリス国立医学研究所に受け入れてもらい、イギリス人のボスと朝のティータイム、昼食、午後のパブタイム、というサイクルで仕事開始。いつ仕事をしているのかと思うほどだが、これらの研究所の業績は世界的にも圧倒的。お茶をしながら、世の中の不思議や新しい発想を考えているらしい。超効率的な研究スタイルで実力主義。その分、個人の自由度が大きく、私達は研究が煮詰まると、気晴らしのヨーロッパ旅行へ。ロンドン滞在中、ヨーロッパ各国、8割ほど制覇した。思い切り研究をし、そして遊んだ。このような自由な生活も終わりに近づき、日本へ帰国することに。

ところが、諸般の事情で急遽アメリカへ行き先変更。とは言っても何処に行くのか未定。おまけに祥子は、日本に帰国して、出産および博士号論文提出と取得をしなければならない。最初はハーバード大学へ、と思ったが、当時政彦と一緒に研究をしていたスタンフォード大学の大先生の所へ1994年の春に移動。この大先生はこの年のノーベル賞の最有力候補との下馬評で、もし受賞が成れば、イギリスのボスが三番

手に入るかどうか。しかし、残念ながら受賞はならず。

ところが21年後の2015年、イギリスの当時のボスが突然受賞。噂ではノミネーションは6回までというルールがあるらしく、大先生は1994年が最後のチャンスだったとのこと。それで賞は他の方へ、との話。その一名はスタンフォード大学の大先生の専門分野と被っており、う～ん、と思った同僚も多かった。

さて、アメリカに移住後、祥子は政彦とは異なる研究室でポスドク。この先生はまだ若手の Assistant professor で、最初はかなりアグレッシブであった。ある日、祥子がこのボスと大喧嘩をし、政彦の居る研究室のお茶飲み場に駆け込んできて大泣き。政彦のボスは当時学部長だったので、「なんだあいつは」と、この若手の Assistant professor の評判を落とすのに貢献してしまった。その後、この方は非常に丸くまた面倒見も良くなり、今ではその分野の大先生。

政彦は北米での大学のポジション獲得を開始。ただ、1つのポジションオープンに1000名近く応募する状態。競争率1000倍では気が遠くなりそうだが、実は裏があり、実質10倍程度。応募者の中から10人程ショートリストに残し、この候補に招待セミナーをしてもらい、その評価で採用が決まる。つまり、このリストに残るかが鍵になるが、正面から行っても残るのはほぼ無理。どうするかと言うと、業績が出た段階で、学会に参加し、行きたい大学の先生と今で言うネットワーキング、日本的にはコネを作る。そして、その大学でポジションオープンがあった時、スポンサーになってもらう。

もちろん、実際には様々なケースがあるだろうが、この様にして10人程度に候補者が絞られて行く。あとは、勝ち残るかは本人の実力次第。この気の遠くなるような作業を開始してすぐ、ケベック市の大学の教授から来ないかと誘われたが、フランス語ができないので断っていた。それでも、セミナーぐらいは、と言われケベック市を訪問したのがケベックとの関わり合いの始め。

サンフランシスコからジェット機でモントリオールに到着。待合室に居ると機体が見えないのに、なぜか名前を呼ばれる。えー、と思いゲートに行ってみる何とプロペラ機。これに乗るのかと、不安に駆られながらもケベック市に到着。翌日は旧市街を観光。街の美しさもさることながら、印象的だったのは出会った人々の自然な笑顔。アメリカ人は、いつも何かストレスを抱えている印象があったので、自然な笑顔が逆に新鮮に感じられた次第。研究分野が全く異なる祥子のポジションも用意してくれるとの条件もあり、また、街も綺麗だし人々もおおらかだし、とか考え出し、アメリカでの職探しに面倒に思えてきて、結局、ケベック市の大学へ Assistant professor として来ることに。

あれから早23年。その間に発見したことは、良くも悪しくも、うちの大学はあの

笑顔と同じく、おおらかなこと。例えば、雇われた当初、教鞭を取った授業の時間数が昇進審査基準の一つになるので、どこかの授業に入れてくれと頼んでも、研究をしていれば良いと言われて入れてくれない。でも、そうは言っても昇進には必要な訳で、結局、他の若手の教授と自分たちも楽しめるようなテーマを見つけてコースを作り、授業時間数稼ぎ。このようなコース、学生の教育の役に立つのかと内心思いつつも、学生も喜んでいるので、まあ～良いかと。一時が万事、この調子で大学からは特に何かしろとか直接言って来ない。その分、研究に集中できるという点ではありがたかったが、大学の一員という感覚は当時全く芽生えなかった。

そうこうするうち、Communaute de l' Université Laval という言葉が学長や学部長のスピーチに頻繁に登場するのに気がついた。その意味するところは Communaute の一員で有るか無いかで線引きが感覚的になされる、ということ。そうは言っても、日本の村的な閉鎖性があるわけでもなく、線の内側に入るか外側位に居るかは本人の自由意志。で、内側に入るのであればそれも welcome だが、日本人としては完全に内側に入ることは難しく、一方、Communaute もそこまでは期待していなかったようだ。結局、ラヴァル大学に二人しかいない日本人教授と言うことで、内と外の間に立ち位置を見出し、現在に至る。

その流れもあり、約7年前、20年ほど未使用であったラヴァル大学図書館内の日本館（エスパスジャポン）と言う施設の再開に関わることになった。医学系研究者なので文化事業とは全く無縁だったが、この機会に、このおおらかな Communaute にお返しをしたい、ケベックの人達にもっと日本を知って欲しい、そして、内と外との接点として何かできればと思い、関わることに。開館に際して、モントリオール総領事館の皆様にもご尽力をいただいた。2015年の再開当初は試行錯誤の連続であったが、日本語とフランス語の日常雑談会話コースと書道家寺本小鳳先生指導の書道コースが軌道に乗り始めた。

途中、パンデミックで数ヶ月間のみ一時中断したが、両活動ともにオンライン化に成功し、今では、日本やカナダのケベック以外の他州まで参加者が広がっている。ケベックの人達の日本文化、自然、文化遺産に対する情熱と興味はこちらの想像以上で、その思いに、私たちが突き動かされているとも言えるかもしれない。日本語を話さないケベック人20人以上が、5年にも渡り書道を続け、さらに、オンラインになっても、日本在住の小鳳先生の書道の指導を受ける姿はいつ見ても感動する。オンライン化で、ラヴァル大学そしてケベック市を超えた状態になったエスパスジャポンが今後どのような形に発展するかは不明だが、内と外を繋ぐのに役立つのではないかと期待している。

日本を含め、イギリス、アメリカ、カナダと四カ国に滞在したが、結局、自分の肌に合った土地に日本人としての心を忘れずに住むのが一番だと思っている。また、2

3年間、とは言ってもまだ定年は先だが、私たちの勝手気ままを許容してくれたラヴァル大学には心から感謝している。そして、日本とケベックの交流がさらに深まることを望んでいる。

カナダ・ケベック市・ラヴァル大学医学部教授
佐藤政彦・佐藤祥子

4 領事便り

(1) 日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。詳しくは当館 HP をご覧ください。

【当館 HP】

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

(2) 領事窓口の受付時間

当地における新型コロナウイルス感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年4月1日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00 及び 15:00～17:00 につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

エレベーターで33階のボタンを押すと、総領事館のあるフロアへお越しになれます。

(3) 2021年度の領事出張サービスについて

現在、以下の都市における領事出張サービスを予定しています。

●2021年8月14日（土）

ニューブランズウィック州 フレデリクトン

●2021年9月11日（土）

ニューファンドランドラブラドル州 セントジョンズ

なお、領事出張サービスは完全予約制としています。ご利用を考えている在留邦人の皆様におかれては、まずは当館にご連絡をお願いします。

【当館 HP】

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday.html>

(4) 在留届の内容は最新でしょうか？

海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認しております。

外国に3か月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

在留届を提出されている在留邦人の皆様のうち、在留届を書面で当館に提出された方におかれては、届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館に御連絡くださるようお願いいたします。

なお、インターネット上で提出された方におかれては、御自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

(5) 海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内

日本国外務省は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活に支障が出ている海外の在留邦人・日系人を支援するため、在外諸団体（日本人会、日本商工会議所、日系人団体等）を通じた「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」を実施することとなりました。

同事業は、日本人会、日本商工会議所、日系人団体等が実施する、新型コロナウイルスの感染拡大防止策やビジネス環境作りの支援を目的とする内容となっています。

この支援事業の申請期間締め切りが、7月30日（金）から9月30日（木）まで延長されました。申請要領などもアップデートされています。

申請には条件がありますので、詳しくは外務省ホームページをご確認ください（個人や企業による申請は認められていません）。

【外務省 HP】

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003572.html

(6) モントリオールアカデミー会から 講演会のお知らせ
心地よい夏が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？

モントリオールアカデミー会では、モントリオールで活躍されている邦人の方をお招きして、定期講演会を企画しております。

今回はお二人の先生を演者にお招きし、8月6日（金）に Zoom による講演会を予定しております。

どなた様も、お気軽にご参加頂けますと幸いです。また、講演会后、懇親会の時間を設けておりますので、お時間許す限り是非ご参加下さいませ。演者の先生方のご講演、皆様とお会いできることを心より楽しみにしております！

日時：8月6日（金）18時30分より

講演内容：

1) 黒井 康博 先生 (Visiting Professor, Brain Tumor Research Centre, Montreal Neurological Institute and Hospital)

「コロナ禍でのモントリオールへの留学 この経験をどう伝えるか」

2) 池田 朋子 先生 (Faculty Lecturer, Department of East Asian Studies, McGill University)

「増え続ける日本語独習者たち—もう日本語教師はいらない!?—」

●Zoom のリンク先

Zoom リンクは以下のとおりです。

<https://mcgill.zoom.us/j/81774155485?pwd=bllJMG4zUENhZkVxQUlOMVVjSVdnZz09>

ミーティング ID: 817 7415 5485

パスコード: 638241

志賀 由己浩、富田 紀男、佐藤 宏明

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を (culture@mt.mofa.go.jp) までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載

することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

(1) 当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

(2) オタクソン 2021（オンライン）

日本のアニメ、マンガ、ビデオゲーム、ポップカルチャー等に関するイベントです。期間中、当館協力事業として、日本文化紹介の動画配信を行う予定です。

期間：8月20日（金）～22日（日）

<https://www.otakuthon.com/2021/en/>

(3) 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。1月18日より隔週月曜19時～21時

参加費：無料

問い合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●1001 Pots

今年で32回目を迎える「1001 Pots」で、当地在住陶芸家の間由加里氏、マキコ・イシェール・ナカムラ氏、石川金矢氏の作品展示が行われます。

期間：7月9日（金）～8月22日（日）

場所：2435 Rue de l'Église, Val-David

<https://1001pots.com/>

●ファンタジア国際映画祭

日本映画も多数上映されます。

期間：8月5日（木）～25日（水）

<https://fantasiafestival.com/en/>

●夏の茶事

お抹茶と日本の伝統楽器、箏の夏の茶事が行われます。

日時：8月14日（土）13時～15時
場所：Association Zen De Montreal
982 Rue Gilford, Montreal

<https://www.eventbrite.ca/e/ceremonie-du-the-dete-chaji-summer-tea-ceremony-aoutaugust-tickets-162291210379?aff=ebdssbeac>

●国際交流基金トロント日本文化センター主催（オンライン）イベント

夏の間、日本語教師向けにワークショップや情報交換会が開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

6 政治

(1) ケベック (QC) 州

- ・6月2日、州議会倫理委員会は、州議会に提出したフィッツギボン (Pierre Fitzgibbon) 経済・イノベーション大臣に関する4度目の報告書の中で、同氏が保有する州と取引のある2企業株を処分するか、内閣を辞職して同株をブラインド・トラストに託すまでは、同氏を州議会出席停止とするよう勧告。これを受けフィッツギボン氏は大臣を辞任。議員は続ける。経済・イノベーションポートのフォリオはジラル州財務大臣が兼任する。
- ・6月2日、プラント (Valerie Plante) モントリオール市長の執行部メンバーで市議会議員のウォン (Cathy Wong) 議員は、11月の市議会選挙に再出馬しない意向を表明。
- ・6月4日、ロワ (Sylvain Roy) 州議会議員がケベック党を離党して無所属に。
- ・6月10日、州議会閉会。
- ・6月15日、ニューヨーク、ブリュッセル、ロンドン、中国の在外ケベック州政府代表が相次いで退任。
- ・6月15日、ケベック保守党 (PCQ) に寄付したとして、サンソン (Claire Samson) 州議会議員が与党ケベック未来連合 (CAQ) から除名処分に。18日、サンソン議員が PCQ 入党を発表、同党は州議会で1議席を獲得。
- ・6月16日、モントリオール市議会で CDN-NDG 区選出議員を務めて39年のベテラン、ロットランド (Marvin Rotrand) 議員は、11月の市議会選挙に再出馬せず政界を引退する意向を表明。
- ・6月18日、ルソー州首相は、新学年度より、中高等学校の課外活動（スポーツ、芸術、宿題補助）を週5時間増やすと発表。

(新型コロナウイルス関連)

- ・6月7日、モントリオール、ラヴァル、エストリ他の警戒レベルが引き下げられ、赤であった地域が全てオレンジに移行。レストランの店内飲食が再開。

- ・6月8日、州政府は、猛暑のため、学年度末まで学校教室内におけるマスク着用義務付けを解除。
- ・6月11日、州政府は、コロナ禍で14.5万人に達する外科手術待機患者数削減に向けた暫定計画を発表。待機患者削減には2年を要する見込み。2024年までに待機期間を最長6か月に短縮することを目指す。
- ・6月14日、警戒レベルがさらに引き下げられ、オレンジであった地域が全て黄色に移行。州人口の85%が住む地域でバー再開、集まり人数上限引き上げ。
- ・6月16日、オンタリオ州からの入州規制、隔離義務付けが解除される。
- ・6月21日、ルソー州首相が2回目のワクチン接種を受ける。
- ・6月28日、州全域の警戒レベルが緑に。
- ・6月30日、州政府は、オフィスへの段階的復帰計画を発表。州政府職員6万人のオフィス復帰は9月7日より段階的に実施するが、テレワークの利点を生かし今後もハイブリッド形式（最低週2日オフィス勤務を義務付け、最大週3日テレワーク）とする。一方民間企業についてはオフィス復帰に関する判断は雇用主に委ねられるが、雇用主はオフィス復帰に向けた安全策（症状のある人を出勤させない、2メートルの対人距離確保等）を講じる必要がある。

(2) ニューファンドランド・ラブラドール(NL)州

- ・6月10日、州政府は、児童福祉制度におけるイヌ（先住民）の子供たちの扱いについての調査担当委員に、元州裁判所判事のイグロリオート(James Igloliorte)氏を任命。同制度下にあるイヌの子供たちがコミュニティから遠く離れた養護施設・里親のもとに預けられている現状等について調査するため、州政府とイヌ代表は2017年に覚書を締結していた。
- ・6月18日、州政府は、Nunatsiavut 政府（ラブラドールのイヌイット自治政府）に児童福祉サービスの管轄を移管するための計画に着手したと発表。3年以内の移管を目指す。2018年調査によると、イヌイットは州人口の1.3%であるのに対し、里親のもとで暮らす子供の15%がイヌイットであり、その大半がコミュニティから遠く離れた所に預けられていた。
- ・6月30日、州政府は、生まれた赤ちゃんを母親の同意なしに保護することを可能にする「birth alert」制度を廃止。2年前に発表された連邦「行方不明・殺害された先住民女性・少女に関する調査(MMIWG)」最終報告書は、同制度が適用される先住民の数が極端に多いとして即時廃止を求めている。

(新型コロナウイルス関連)

- ・6月2日、州政府は、6～9月にかけての段階的な再開・緩和計画「Together Again Plan」を発表。ワクチン接種率、感染状況、医療体制等により次のステップへの移行時期が決定、変更される可能性がある。まず6月15日に「移行期間(Transition)」が始まる。大西洋他州含む国内旅行者の隔離なしの入州については、ステップ1（早くて7月1日開

始)ではワクチン接種が完了している場合、ステップ2(早くて8月15日開始)では、ワクチン1回接種済みの場合に可能となる。

- ・6月4日、ワクチンの2回目接種前倒し開始。

- ・6月8日、ニューファンドランド島北東・中央部(Lewisporte to Summerford area)の警戒レベルが3から2に引き下げられる。

- ・6月12日、ニューファンドランド島西部(St. George's - Stephenville - Port au Portとその周辺地域)の警戒レベルが4から2に引き下げられる。

- ・6月23日、大西洋州からの隔離なしの入州開始。当初の予定(7月1日)よりも早く、ワクチン接種状況は問われない。

(・7月1日、大西洋州以外のカナダからの入州は、ワクチン2回接種済みなら隔離不要に。)

(3) プリンスエドワードアイランド(PEI)州

- ・6月18日、カナダ統計局によると、今年4月1日時点の州人口が16万人を突破。コロナ禍で増加率が鈍化したものの、PEI州は人口増加率が国内トップ。

(新型コロナウイルス関連)

- ・6月3日、モリソン州保健局長は、夏の間の公衆衛生措置緩和状況によるとしつつも、秋の新学期では小学生の固定グループ分け(cohort)措置は残る可能性があると言言。

- ・6月17日、州政府は、州をまたいだ隔離なしの往来を可能にする「PEIパス」申請受け付け開始。まずはPEI含む大西洋州民が対象。

- ・6月27日、ワクチン1回以上接種済みの人を対象に、大西洋州からの隔離なしの入州開始。

- ・6月29日、州政府は、大西洋州外のカナダからの入州について、予定を早め7月18日開始を発表。ワクチン2回接種済みなら隔離なしに入州できるようになる。

(4) ノバスコシア(NS)州

- ・6月4日、BC州 Kamloops の先住民寄宿学校跡地で215人の子供の遺骨が埋まっているという5月のニュースを受け、かつてNS州に存在した先住民の子供向け寄宿学校 Shubenacadie Indian Residential School 跡地の新たな調査が開始。これまでの調査では墓や遺骨は見つかっていない。

- ・6月10日、マクニール前州首相は、政界引退6週間でハリファックスの弁護士事務所 Cox & Palmer の「戦略的ビジネスアドバイザー」に就任。

- ・6月11日、今年1月18日に臓器・組織提供拒否を意思表示(opt out)しない人はドナーとみなされる、北米初の人体臓器・組織提供法(Human Organ and Tissue Donation Act)が施行してから5月20日までの間に、提供拒否を意思表示した人は州人口の3%未満であった。

- ・6月21日、ハリファックス市は、同市創設者コーンウォリス(Edward Cornwallis)の名

を冠していた市内の公園を新たに「Peace and Friendship Park」と名付け除幕式実施。コーンウォリスは18世紀にミクマク・ファーストネーションの頭皮に対し賞金をかけたことが今日でも論議を呼んでおり、2018年には同園にあったコーンウォリス像が撤去されていた。

・6月30日、ハリファクス北東65km、シペクネカティク(Sipekne' katik)ファーストネーションにあるカトリック教会で火災発生、放火の疑い。BC・SK州の先住民の子どもの遺骨発見以来、教会の火災や破壊が国内各地で発生している。

(新型コロナウイルス関連)

・6月1日、州政府は、アストラゼネカ製ワクチンの2回目の接種の使用を再開。

・6月3日、ワクチンの2回目の接種の前倒し開始。

・6月18日、州政府は、感染状況が落ち着いてきたとし、州政府が反ワクチン・反ロックダウン集会を阻止するため5月に取得した違法集会差し止め命令解除を州上級裁判所に対し申請。

・6月22日、州政府は、23日から開始予定であった大西洋州の隔離なしの往来について、NB州(17日より、大西洋他州にさきがけカナダ国内からの入州はワクチン1回接種済みなら隔離不要)からの入州についてのみ、ワクチン接種状況により数日~14日間の隔離を義務付けると発表。

・6月22日、上記措置に抗議する人たちが、両州をつなぐ道路トランス・カナディアン・ハイウェイを封鎖して両方向通行止めに。23日、3人の逮捕者が出た後に道路は両方向で開通。地元選出のスミス＝マクロシン州議会議員は、道路封鎖をあおったとして進歩保守党から除名処分に。

・6月23日、NL、PEI州からの隔離なしの入州開始。ワクチン接種状況は問われない。

・6月30日、フェーズ3開始。NB州からの入州が隔離不要に(ワクチン接種状況は問われない)。大西洋州以外のカナダからの入州は、ワクチン2回接種済みなら隔離不要に。

(5) ニューブランズウィック(NB)州

・6月3日、シェパード州保健大臣は、州内で死者6人、罹患疑い48人に上る謎の脳疾患について専門監視委員会設立を発表。同疾患について結論は出ていないもののプリオン病の可能性は除外され、環境毒素によって引き起こされている可能性を調べるという。委員会は4か月かけて情報収集や分析検討を行っていく。

・6月25日、先住民の子どもの遺骨発見のニュースが相次ぐ中、フレデリクトン、バザースト、セントジョン、カッププレの各自治体が7月1日のカナダデー祝賀行事とりやめを決定。

(新型コロナウイルス関連)

・6月16日、12歳以上人口のワクチン1回の接種率が75%を達成し、再開フェーズ1が12日遅れで開始。PEI, NL州全域とNS, QC州境地域からの入州が隔離不要に。

・6月17日、65歳以上人口のワクチン2回の接種率が20%を達成し、当初の予定（7月1日）よりも早く再開フェーズ2開始。大西洋州外のカナダ国内からの入州について、ワクチン接種を1回以上受けた人は隔離不要に。

【各州世論調査結果（未確定分は除く）】

●州政党支持率

- ・NL 州（ナラティブ・リサーチ (Narrative Research) 調べ（以下同じ）、5月11～26日）：自由党 54%，進歩保守党 (PC) 30%，新民主党 (NDP) 14%，緑の党 1%，その他 1%
- ・PEI 州（5月18～28日）：PC 53%，緑の党 23%，自由党 19%，NDP 4%，その他 2%
- ・NS 州（5月4～28日）：自由党 52%，PC 24%，NDP 19%，緑の党 5%
- ・NB 州（5月6～31日）：PC 39%，自由党 28%，緑の党 18%，NDP 8%，ピープルズ・アライアンス (PA) 6%，その他 1%

7 経済

(1) QC 州

- ・6月2日、電気バス・トラック製造の Lion 社は、発表済みの電気自動車用バッテリー工場建設地は、同社本社のあるサン・ジェロームではなくミラベルとなると発表。プロジェクト費用 1.85 億加ドル、2023 年開設後は 135 人の雇用が見込まれる。
- ・6月3日、ボンバルディアは、米空軍より Global 6000 型 1 機を 5 機のオプション付きで受注。受注額は 5.7 億加ドルとみられる。機体には米空軍仕様に戦闘地域の監視・通信機能が付けられる。
- ・6月10日、ケベック投資公社 (IQ) は、2020 年度はコロナ禍でも 9.9 億加ドルの利益と 25.1%の収益率を記録。4403 件の融資と、総額 162 億加ドルのプロジェクトに 450 万加ドルの投資を実施。
- ・6月16日、エア・トランザットは、11月1日より、カリブ海、メキシコ、中南米、アメリカ、ヨーロッパ約 50 都市への運航再開を発表。
- ・6月21日、ハイドロケベック (HQ) は、同社史上初となる太陽光発電施設をサウスショア 2 か所に開設。1 つは La Prairie に、もう 1 つは Varennes 同社研究所の敷地内に設置する。2 施設合わせた発電容量は 9.5 メガワットで、年間約 1000 世帯分に当たる 16 ギガワット時 (GWh) の太陽光エネルギーを生産する。
- ・6月22日、カナダ初となるコロナワクチン製造施設がモントリオールに開設。ワクチン製造開始は 2022 年春以降を予定。連邦政府が 1.2 億加ドル支出し、年間 2400 万回分の Novavax ワクチン製造が可能となる。
- ・6月29日、連邦政府は、リオティントとアルコアのジョイントベンチャーによる、温室効果ガスを出さないアルミニウム生産プロジェクトに 2000 万加ドルを追加支出。「エリシス (Elysis)」と名付けられた同プロジェクトは、世界初となるカーボンフリーアルミ製錬技術の商業化を目指すもので、これまでに数千万ドルの税金が投入されており、アップルも投資している。

(2) 大西洋州

・6月15日、エアカナダが夏の国内線運航スケジュールを発表。QC・大西洋州含む地方路線を再開する。フレデリクトン、セントジョン、シドニー等では民間航空機の発着の再開となる。

・6月25日、ウエストジェットが大西洋路線の運航再開と新規就航を発表。新規就航するのはシャーロットタウン・カルガリー便で、昨年6月の予定がコロナ禍で遅れ7月29日より運航開始予定。

(3) NL 州

・6月3日、州政府は、6月15日に退任するマーシャル・ナルコー(Nalcor、州エネルギー公社)CEOの後任として、ウィリアムズ現NLハイδρο(ナルコー子会社)CEOが暫定CEOに就任すると発表。

・6月16日、石油開発大手サンコー・エナジー(本社カルガリー)は、ニューファンドランド島沖のテラ・ノヴァ(Terra Nova)オフショア油田延命工事継続のための短期資金を提供することでパートナー企業と基本合意したと発表。サンコーは出資比率を38%から48%に引き上げる。州政府が5億加ドルの財政支援を行うことが条件。最終決定は今秋頃の見込み。

・6月23日、州政府は、ナルコー解体と、同社のNLハイδροへの統合を発表。ナルコーは州のマスクラットフォールズ含む水力発電・石油ガス資産を管理している。

(4) PEI 州

・6月10日、州政府は、6月16日に施行となる新水法(Water Act)にもとづく新たな規制を発表。2002年から同州で施行中の大容量の灌漑用井戸一律モラトリウムに代わり、農家は井戸設置許可を個別に申請できるようになる。申請は地域の水源の健全性や農家の干ばつ対策にもとづき状況に応じて審査される。申請は法施行から90日後に開始可能となるため、今夏の井戸設置はできない見込み。

・6月15日、州東部のThree Rivers町議会は、Great Wisdom Buddhist Institute仏教尼僧院の拡張計画を全会一致で承認。Brudenell地区に170戸の寮を建設するという計画を町議会は2020年9月に否決したが、同尼僧院がその後地元住民と関係を構築し理解が得られたとのこと。

(5) NS 州

・6月2日、シペクネカティク(Sipekne'katik)ミクマク・ファーストネーションは、6月1日から開始予定であった、連邦政府が定める漁期外のロブスター漁を無期延期。当初同コミュニティは「生計を立てるための漁業」、後に「食糧・社会・儀式」の枠組みで漁を実施すると発表していた。

・6月17日、連邦・州・政府ハリファックス市は、ベッドフォード・ハリファックス間を結ぶ新たなフェリー路線開設に共同で取り組むと発表。合わせて300万加ドル支出し、

ベッドフォードとハリファックスのターミナルをそれぞれ新設、改修する。州で初となる電気フェリー導入も検討する。

・6月19日、州政府は、コロナ禍の一時措置として徴収を取りやめていた州営フェリー運賃を恒久的に撤廃すると発表。

・6月22日、州政府は、州独自の輸出シーフード品質認証プログラムを開始。ロブスター含む17種類の水産物が対象で、基準を満たし認証を受けると「ノバスコシアシーフード」のロゴを使用することができ、州政府主導のプロモーションでも優遇されるというもの。

・6月24日、州政府は、ハリファックスで雇用支援・所得補助(ESIA)を受けている人を対象に、ハリファックス内交通の年間バスパスを無料で提供するパイロットプログラムを恒久的に実施すると発表。

(6) NB 州

・6月1日、州政府は、州内観光リポートプログラム参加資格を NS, PEI, NL の大西洋州民にも拡大すると発表。宿泊をとまなう旅行をした人に1000加ドルを上限に20%の補助が出る。

・6月21日、モンクトン空港は、海外で陰性証明が必要な人向けに空港でスクリーニング検査開始。渡航先が求める検査条件により、PCR 含む3種類の検査を用意。予約あり・なし両方に対応。

----- [在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン購読登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン購読登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。
https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ日本国大使館ホームページ (www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館ホームページ (https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モンリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■